

【担当教員名】 宮岡 洋三、井上 誠	対象学年	1	対象学科	作業、言語
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

## 【概要及び学習目標】

＜概要＞前期で学んだ「生理学Ⅰ」では、高校までの「生物」に出てきた知識を跡付けしながら、生体についての基礎的観点を理解しました。この「生理学Ⅱ」では、生体機能をより詳細な分野別に学習します。生体機能では、各種の神経機構が重要な役割を果たします。従って、生体機能を理解する上では、神経生理学的観点が大きな比重を占めてきます。この観点に比重を置いた学習は、将来リハビリテーション従事者として活動する上でも、必ずや役に立ってきます。

＜学習目標＞全体の構成としては、神経や筋などの興奮性細胞について最初に学習し、次いで「感覚機能」、「脳の統合機能」、そして「循環・呼吸・消化機能」という生命維持の根幹となる機能について詳しく学びます。加えて、神経性調節と双壁をなす「内分泌機能」についても理解を深めます。その後、「腎機能」、「酸塩基平衡」、「代謝」、そして「体温」という体液や栄養のバランスに関わる機能について学びます。最後に、「運動機能」の神経制御機構ならびに運動と各種の生体機能の関係を学びます。

回数	学習の主題	学習内容	学習方法
1	感覚総論、体性感覚	感覚の一般的性質、体性感覚の末梢ならびに中枢機構	講義
2	特殊感覚	視覚・聴覚・前庭感覚・化学感覚の末梢ならびに中枢機構	同上
3	脳の統合機能	視床下部・大脳辺縁系・大脳皮質の働き、学習・記憶、覚醒・睡眠	同上
4	血液、心臓	血漿、血球（免疫）、血液型、血液凝固、心筋と心臓の電気生理学	同上
5	循環、血管	心電図、心筋と心臓の収縮機序、血圧、循環調節、特殊循環	同上
6	呼吸機能	呼吸運動、呼吸気量、呼吸力学、肺胞ガス交換、呼吸調節	同上
7	消化、吸収	消化管運動（咀嚼・嚥下・排便を含む）、消化液分泌、吸収	同上
8	内分泌	ホルモンの作用機序、視床下部-下垂体系、各種内分泌腺	同上
9	腎機能	糸球体濾過、尿細管での再吸収と分泌、体液量と浸透圧調節	同上
10	酸塩基平衡	血液の緩衝系、pHの調節機構、酸塩基平衡の異常	同上
11	代謝と体温	栄養素の摂取と代謝、エネルギー代謝、体温調節	同上
12	運動系の機能-1	脊髄、脳幹、小脳の各レベルでの運動制御機構	同上
13	運動系の機能-2	大脳基底核、大脳皮質による運動制御機構	同上
14	運動生理学	運動と筋収縮、運動時の人体機能（心拍出量、換気、発汗）	同上

## 【評価方法】

授業への出席と期末試験

## 【履修上の留意点】

## 【使用図書】

教科書・参考書等	書名等	著者名	発行所	発行年・価格・その他
教科書	生理学テキスト（第3版）	大地 陸男	文光堂	2000年・5,040円
参考書	必要に応じて指定（基本的に、本学図書館の所蔵図書）			
その他（プリント等）	必要に応じて随時配布			